

令和5年度 横浜旭陵高等学校 第2回学校運営協議会 議事録

- 1 日時 令和5年11月18日（土）10:00～12:00
- 2 場所 県立横浜旭陵高等学校 B棟1F 多目的室
- 3 出席者 学校運営協議会委員：7名（欠席者：小玉 敏也、若月 芳浩、佐久間 桂一）
学校関係者：11名（管理職・総括教諭他）

4 内容

第1部 評価部会（10時～11時）

第2部 地域連携部会（11時15分～12時）

第1部 評価部会（10時～11時）

（1）校長あいさつ

（大野校長）

認知行動療法を取り入れた授業実践に取り組んでいます。その本校の取り組みがNHK総合で放送されました。通常の授業に、他の教科の教員が入ることで異なる見方に気づくことができることをねらいとしています。この取り組みが県内や関東地区に広がることを願っています。

（2）グループより目標達成状況報告

（研究開発Gリーダー 東南総括教諭）

授業改善に取り組んでいます。認知行動療法を取り入れた授業を通じて生徒の自己肯定感を育むことを目指し、研修や研究授業の運営を行っています。

生徒による授業評価では、自己肯定感を育む意図を反映させた質問を追加しています。これを活用して、「わかった」と思える授業づくりを進めてまいります。

学校へ行こう週間の取り組みも行っています。文化祭の作品等を展示し、学校のPRを行っています。

（学事情報Gリーダー 大久保総括教諭）

新旧教育課程が混在している今年度ではありますが、前期末成績処理は無事終了しました。卒業年次のための調査書発行も遺漏なく対応できました。

また、再来年度以降の教員数減が予想される中で、少人数指導をどう維持していくかを検討する時期になっています。

さらに、高校入学者選抜の出願方法と選考方法が変更されました。最後の入試になりますが、引き続き丁寧に進めていきます。

（進路支援Gリーダー 千葉総括教諭）

コロナ5類変更に伴って、看護、インターンシップが再開されました。

進学については、続々と試験合格の報告が出たり、試験を実際に受験したりと進路活動真っ只中の時期となっています。

就職につきまして、多くの求人をしていただきました。9月以降続々と内定をいただいています。ありがとうございます。

（生徒成長支援Gリーダー 山森総括教諭）

前回、5月の学校運営協議会では、「生徒指導の件数は減少傾向にあります。一方で、規範意識の低い生徒も多くいるため、HRの時間や全校集会、放送などで生徒の規範意識を高めようとしています。」と、お話ししました。

その後ですが、SNSに絡んだ指導案件が多くを占めており、不適切な画像をアップしたり、誹謗中傷をしてしまったりと本当に軽い気持ちで行ってしまっています。気軽にSNSを使用することが世の中の風潮なのかもしれませんが、「ダメなものはダメなのだ」と、今後も粘り強く指導していきたいと思っています。

教育相談に関しては、スクールカウンセラーの拠点校を担っているため、利用はしやすいです。スクールソーシャルワーカーの来校日も多く設定されていて、受け入れ体制は充実しています。今後も支援を継続していきます。

今後も生徒の成長を見守っていきたいです。

(自主活動支援Gリーダー 代理 大久保総括教諭)

9月から11月は生徒会行事が活発に行われる期間です。非常に盛り上がり、生徒たちが大変いい顔をして活動していました。今年度初めて、陸上競技大会と合わせて生徒会主催の体育大会も行われました。こちらも大変盛り上がりました。11月の旭陵祭はコロナ禍以降、久しぶりの2日間開催を実現しました。2日間開催を体験するのは初めてという生徒ばかりでしたが、後夜祭まで楽しんでおりました。

また、今年度、毎月清掃ボランティアの活動を行っております。さらに、年に1度の地域貢献活動については、地域の皆様に、さまざまな経験をさせていただき、生徒にとって大変勉強になったかと思えます。

部活動についても、様々な活躍の報告がされています。

(総務管理G 鈴木教諭)

20周年の式典を行いました。冊子の作成を行っています。記念誌の最後のページはPTA活動に関する記載です。活発な活動をしていただいていますので、どうぞご覧ください。

来年度で最後の入学生となります。学校広報活動にも力を入れています。少しでも多くの生徒に興味を持ってもらいたいと思っています。中学校訪問も実施しています。引き続きPR活動を続けてまいります。

ホームページでも本校の教育活動について紹介しています。

(3) 委員よりご意見ご要望等

(久保様)

順調な取り組みが進んでいることを嬉しく思います。認知行動療法を取り入れた授業の取り組みについて、率直にすごいなと感じています。

(大和田様)

認知行動療法を取り入れた取り組みについて、他校種への広がりを目指したいと思います。

生徒の皆さんの活動についてもご報告いただきましたが、コロナ禍の4年間を経ての学校文化や伝統を掘り起こしつつ、ブラッシュアップしていただくとよいかと思いました。

生徒指導について、SNSに関わるトラブルについてどう指導をしているのか、また、指導しなければならない事案はどのような形で見つかっているのか伺いたいと思います。

(青木教頭)

様々な方面からの指摘を受けて、明るみになることが多いです。

(東南総括教諭)

1年生はSNSやスマートフォンの使い方に不慣れな部分も多いです。LHRなど活用し、さまざまな場面で指導を行っています。

(十亀様)

ここまで生徒さんたちと向き合うというのはすごいことだと思います。問題を抱えたり、スムーズにいかなかったりということは学校だけでなく、職場でもありうることです。一人ひとりと向き合って支援していくことは大切だと考えています。

旭陵高校から進学してくる社員と話すこともあります。話していて、自己分析ができる生徒が多く社員として入ってきており、良い教育が行われているのだろうなと思いました。

自己肯定感が低いということについて、校長はどのように気づき、意識されるようになりましたか？

(大野校長)

国際比較において日本の若者は自己肯定感が低いというデータがあり、以前から気になっていました。

日本における昨年度の自殺者のうち7割が高校生である点がわかっています。

内閣府の第5回自殺総合対策の推進に関する有識者会議において、自己肯定感の低さと自死との関連が指摘されており、国の方針として、なんとかしようという方向性が示されています。本校では、自殺を未然に防ぎたいという思いがありました。在籍する教員たちの持つ問題意識と一致しているため、全体で協力して取り組んでいます。

(十亀様)

ありがとうございます。

高校での取り組みが、社会に繋がっていくといいなと思いました。

(渋谷様)

認知行動療法とは具体的に何をするものなのか気になりました。

地域貢献デーについて、1年生が楽しそうに活動していました。上白根中の生徒と協働する取り組みも良いと思います。

来年度で最後の入学生となるのであれば、今後の地域貢献デーはどうなっていくのかも気になりました。

今年は上白根北中の生徒に自治会の会議に参加してもらおう等を試みました。

将来を担う子どもたちを地域に取り込み、将来は自分たちの未来なのだとことを考えてもらいたいと思っています。今後もなにかあれば協力したいと思います。

進路支援グループより看護体験について説明がありました。安全・安心、環境に関心を持つ若者が増えてほしいと考えています。

(大野校長)

認知行動療法は認知を変えることで行動を変えようというセラピーです。より良い行動ができるよう、様々な場面で活用されています。ネガティブやマイナスの認知だけでなく、それを多様にすることで感情や行動を変容させていこうというものです。

認知行動療法を教科の中でこの取り組みを行うのは稀です。

さらに、全校挙げてとなると例がないようです。いろんな考えを持つよう、そうすれば気持ちや行動に余裕もてるから、これができれば卒業までにかかなりの経験を積む事ができるのではないかと考えています。

(渋谷様)

われわれ大人も、身につけていきたい力ですね。

何か壁にぶつかったときも「なんとかなる」と思えばなんとかなるものです。社会に出てもそのように考えることが大切だと思います。これはまさに認知行動療法の考え方です。

(山田様)

社会福祉協議会では、子どもにかかわる学費の相談や生活相談、居場所づくりを行っています。子どもたちに接する機会も多くあります。

そのような子どもたちには自己肯定感の低さが影響していると考えています。学校でこのように向き合いながら取り組んでいただき、先生方の努力に敬意を評します。なにかできることがありましたら、お知らせください。

(渡邊様)

テレビを見て、認知行動療法を取り入れた授業は素晴らしい取り組みだと思いました。

学校の制度が変化し続けている中で、生徒たちはみな楽しそうに学校生活を送っています。旭陵祭では手探りの状態で工夫しながら行事を成功させたのが本当に楽しそうでした。

先生方のご指導ご協力あっての生徒たちの笑顔だと思います。生徒たちは情報のインプットはスマートフォンの普及で得意だと思います。アウトプットの機会が増えるといいなと思います。

第2部 地域連携部会（11時15分～12時）

（1）地域連携事業について

(斉藤副校長)

「ズーオロジー」の授業について、ズーラシアさんのご協力で実施しています。本校の特色が現れた目玉の授業で、生徒たちは大変楽しみに取り組んでおります。

(東南総括教諭)

「子どもの発達と保育」では四季の森幼稚園他で幼稚園教諭や保育士の仕事を学ぶ機会を頂いています。

また、22期生では、文化祭で地域の商品を販売するなど、地域との連携を一部で行いました。今後も続いていくといいなと思います。

さらに、地域貢献デーでは、生徒たちは地域での活動に達成感を持って帰ってきました。貴重な場をご提供いただきありがとうございました。

そして、文化祭で発表した卒業年次の生徒3人は地域の施設での慰問もおこなっているようです。引き続き見守っていただければと思います。

（2）委員よりご意見ご要望等

(久保様)

平成16年から「ズーオロジー」が続いているということで非常に長い付き合いだと思っています。公立高校での実践例は聞いたことがなく、知識と生の体験での学びをマッチングさせた貴重な事例です。高校生が一般の方に動物を紹介するという取り組みも貴重な経験かと思います。動物園にとっても通常とは異なるチャンネルでの発信が可能という点で大切な機会です。再編統合後も何らかの形で継続されていることを期待しています。

(大和田様)

しらねの里はおもに知的障害のある方の地域生活をどう支えるかという課題を抱えています。

コロナ禍以前は生徒さんたちにお越しいただいて体験して学んでいただいていたと聞いています。ぜひ福祉の現場体験学習もご検討いただきたいと思います。

(十亀様)

生徒が得意なことを地域とつなげる取り組みに感心しました。

(山田様)

地域の方と関わることで達成感を感じ、大人たちとの関わりを得ていることを嬉しく思います。社会福祉協議会はボランティアセンターという機能を有しております。登録していただくと大変喜ばれると

思います。旭区社協の会員さんには多くの施設がありますので活用いただければ、生徒さんと多くの人との関わりを促進していけると思います。

(渡邊様)

以前には、三ツ境駅で薬物防止キャンペーンのチラシ配布を行っていたことがあります。また、復活できるといいなと思いますので、引き継ぎたいなと思います。

「ズーオロジー」がきっかけとなり牧場で働くなど、地域が生徒に影響を与える場面は多くあります。再編統合後もぜひ引き継いでいただきたいと考えています。

(3) 校長より

(大野校長)

学校運営協議会（コミュニティスクール）の本来の意図は学校を地域に開かれたものとして運営していこうというものです。学校に至らない点があって当たり前と考えていますので、忌憚なくご指摘いただき、地域との連携を促進することでより良い学校にしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいいたします。

(4) その他

次回予定は3月9日（土）の午後の開催です。